



日本建築学会

東北支部年報

第 30 号

〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉 1-5-15

日本生命仙台勾当台南ビル 4F

TEL 022-265-3404

FAX 022-265-3405

E-mail: aij-tohoku@mth.biglobe.ne.jp

<http://news-sv.aij.or.jp/tohoku/index.htm>

巻頭言

— 日本建築学会大会（東北）を終えて —

東北支部長

井上 範夫

前任の吉野支部長が、日本建築学会の副会長に立候補されるに当たって支部長を辞任されることになり、私が急遽その後継者として、残り任期 1 年の支部長をお引き受けすることになりました。私は、当時すでに、2009 年度日本建築学会東北大会の実行委員長を仰せつかっており、実質的な活動を行っておりましたので、支部長を兼任するのは大変な任務であるとも思いましたが、実際始めてみると、予算は支部で最終的な収支を管理しなければならないことや、支部としての行事を大会の行事として行うなどのこともあり、両方に関連して大会を主催していくには、かえって好都合であると思うようになりました。

東北大会は、東北支部の常議員や大学研究者の方々によって精力的に準備を進めることになりましたが、その詳細は、大会報告として別稿で述べていますので、ここでは特徴的なことを簡単に述べさせていただきます。今回はコンパクトな会場であったためかえって管理がやりやすかったこと、記念行事と関連行事に力を注いだこと、エコを配慮したことなどが特徴的であり、参加者の数も極めて多い大会となりました。また、終了後には、建築学会佐藤会長から、手作りのよい大会でしたとのお褒めの言葉を頂き、東北支部の力を示せたよい大会となりました。これも、皆様方の献身的なご協力があったればこそと感謝申し上げます。

支部の運営に関しては、現在借りている支部の部屋が賃貸契約更新の時期に当たりましたので、昨今の不況による家賃の低下の状況に鑑みて、不動産管理会社と交渉を行い、削減を認めていただいて再契約することになりました。本部からは、再三家賃の軽減の要望がありましたので、それに対して答えることができ安堵しております。

また、今年度の大きな改革として、東北支部研究発表会の論文投稿を電子投稿に変更しました。この件については、前から何度も話題に上がっていたと伺いましたが、他の支部の動向も睨み、経費削減や投稿者の利便性なども検討して、踏み切ることにいたしました。このシステムの立ち上げは、担当委員の方のご尽力によるものですが、実際にスタートしてみるとさまざまな問題点もあるかも知れませんが、継続的に見直しを行いながら皆様に満足していただけるように改良していただければ幸いです。

東北支部の活動としては、その他さまざまございますが、それぞれについては各委員会や部会の報告に詳述しておりますのでそちらをご覧ください。

来年度も引き続き会員皆さまのご協力、ご支援をお願いいたします。

もくじ

○巻頭言	1	○第20回東北建築作品発表会報告	6	○支所だより	13
○企画記事	2	○第29回東北建築賞表彰式及び展示会報告	7	○常議員会から	15
○特別事業	2	○「作品選集2010」東北支部選考経過報告	7	○支部役員名簿	16
○建築教育事業報告	3	○2009年度設計競技東北支部審査報告	7	○2009年度事業報告	17
○東北建築賞（作品賞）選考報告	4	○2009年度東北支部研究報告会報告	8	○2010年度事業計画（案）	19
○東北建築賞（研究奨励賞）選考報告	6	○2009年度日本建築学会東北支部総会報告	8	○法人・賛助会員名簿	20
		○研究部会活動報告	9		

「みちのくの風 2009 福島」開催報告

常議員（総務企画） 松井 壽則

「みちのくの風 2009 福島」は2009年6月20日(土)、21日(日)の両日に福島県福島市の「コラッセふくしま」で開催された。今年度は、第72回東北支部研究報告会、招待講演、パネルディスカッション、第29回東北建築賞表彰式並びに受賞記念講演会と両日を通してのパネル展示会を行った。それらの概要について以下に示す。

まず、第72回東北支部研究報告会は、発表題数：121題、発表会参加者数は延べ200名程度（CPD登録者：20日60名、21日64名）であった。これらの発表論文は、日本建築学会東北支部研究報告集第72号構造系ならびに同計画系の二分冊として刊行された。

招待講演は、まず6月20日(土)に計画・環境部門の講演として東京大学大学院の大月敏雄先生から「戸建て住宅団地の住環境運営」と題して約70名の参加者に講演がなされた。さらに、翌21日には東京大学生産技術研究所の川口健一先生から「新しい構造システムへの挑戦」と題して自作の模型を提示しながら約100名の参加者を前にして講演がなされた。

パネルディスカッションはテーマを「ユニバーサルデザイン環境の現状と課題」とし、NPO法人 ユニバーサルデザイン・結 副代表の菅野真由美氏、建築家協会の嶋影 健一氏、元福島県建築領域の斎藤 隆夫氏と秋田県立大学の長谷川兼一先生にパネリストとして務めていただき、それぞれの立場から事例を通して講演された。その後、コーディネータとして岩手県立大学の狩野 徹先生が質疑並びに討論・まとめを行った。参加者は約70名であった。

第29回東北建築賞表彰式は6月20日行い、それぞれの受賞者の記念講演を行った。

パネル展示会には20日、21日の期間中、建築賞作品賞6点と特別賞1点の計24枚のパネルと法人1社3枚のパネル並びにJIA福島会員の作品に関するパネル20枚さらに模型1点を展示した。

なお、20日の17時30分から会場をコンポステラに移し、懇親会を開催した。支部研究発表者、東北建築賞受賞者、地元関係団体、支所・支部関係者ら約40名の出席を得て、親交を深めた。おわりに「みちのくの風」の開催にあたりご尽力を頂いた福島県並びに福島支所を始め関係各位に謝意を表し、報告とする。

2009年度日本建築学会（東北）大会報告

大会実行委員長 井上 範夫

2009年度日本建築学会東北大会が8月26日から29日に開催されましたので、ご報告いたします。会場は、当初予定していた東北大学の川内キャンパスが全面改修となり、東北学院大学に変更しました。例年は3日間開催されますが、会場がコンパクトなため4日間の開催となりました。準備に当たっては、吉野大会委員長、井上大会実行委員長の下に支部常議員や大学関係者からなる実行委員会を組織し、1年半前から活動を行って来ました。

今年度の大会では、「都市のリアリティ」というテーマを設定し、21世紀の環境、生活の場はどうなっていくのかを問題として捉え、建築の立場からこの大きなテーマを考えていくという趣旨で行いました。この統一テーマのもと、本大会では、記念行事と関連行事にも大きな力を注いだことに特徴があります。記念行事の中で、東北大学100周年記念会館・萩ホールで行った記念シンポジウム「都市はくデタラメか？」は、まさにこのテーマに沿うものであり、800名の参加を得て好評でした。また、せんだいメディアテークでは、建築に関する映画上映や、夏休み中の子供さんも含めて、一般の方も楽しめるようなアーキニアリング・デザイン展などを開催しました。特にアーキニアリング・デザイン展は、1週間にわたってメディアテーク1階の展示スペースを借りきって行い、10,468名の参加を得て大成功をおさめました。さらに、関連行事として、フォレスト仙台で「住まいづくり市民セミナー」を開催し、一般市民を対象とした講演および住宅の住み方相談を行いました。これらの催しは、「市民に開かれた建築学会」として市民にアピールできるよい機会であったと考えています。

運営においては、エコを配慮し、参加票をビニール袋に入れずに紐で吊るすことにしたり、受付で配布する袋を布製にし、エコバックとして長く使ってもらえるように工夫しました。また、参加票やエコバックは、ポスター・チラシなどと合わせて実行委員会がデザインを統一して作成し、好評でした。

会期中に最も心配したのは、インフルエンザ対策でしたが、事前にマニュアルも作成し、会場の随所に消毒薬を配置するなどの対応策を行った結果、事なきを得ることができました。

学術講演発表数は6,403題で、過去5年間で最も多く、参加者は、合計9404名であり、東京、大阪での開催に次ぐ多数となり、主催者として喜ばしいことでした。

本大会運営においては、大会委員会・実行委員会の委員、本部事務局、エージェントの方々にご尽力いただきました。また、275名の学生諸君の献身的な協力を得ました。ここに、皆様に感謝申し上げます。

2009 年度建築文化週間事業報告

福島支所 大和田 光将

福島支所では、2009 年の建築文化週間事業として、10 月 10 日に福島市で「建築を考える環境講座」を開催いたしました。また、当講座に先立ち支所総会を開催いたしました。

当支所において 11 回目を数える建築環境講座ですが、今年度は「日本盲導犬総合センター」で 2009 年日本建築学会賞作品賞を受賞された建築家で東京大学准教授の千葉学氏をお招きして、「そこにしかない形式」と題し、講演会を開催いたしました。高校生や大学生等の参加を得て、当初予定していた定員を上回る方々にご参加いただき、盛況のもとに開催することができました。

講演の中で千葉氏は、周辺環境やプログラムなど一回性の条件を建築として成り立たせるルールを「そこにしかない形式」と称する一方で、そのルールが様々な事象を受容する普遍的なルール、すなわち「そこだけではない形式」でありたいという想いをテーマに込めて語られました。

講演では、まず世界各地の農耕風景やマイケル・ハイザーなどの地形を題材とした作品を示され、人間が自然に手を加えることでその土地のポテンシャルを引き出すことを説明された後、同じ様に建築することによってどれだけ土地のポテンシャルを引き出せるか、自身の作品とそれぞれの「そこにしかない形式」を通じて、エピソードを交えながら楽しく、分かりやすく話されました。

「Studio Gotenyama」では、奥行きのある窓枠のステンレスに混沌とした街並みを映し出すことで虚像と実像を造り、周辺環境との新たな関係性を形作ったことなどを話されました。

「日本盲導犬総合センター」では、各諸室を蛇行する回廊で繋ぐという形式が、実施案に至るまで変わりゆく諸条件を柔軟に受容しながらも、その有効性を失わないことや、結果として蛇行する回廊が富士山の登山道と同じ形状であることなどを話されました。

講演の最後には大多喜町役場庁舎プロポーザルで最優秀者に選ばれたプレゼンテーションを披露していただいたり、講演後には質疑や作品集へのサインにも応じていただくなど、特に高校生や大学生など建築を志す若い方々にとって、大変有意義な機会であったと感じております。

最後に、福島支所では、地域の学校や関係各所との連携・協働により、事業や活動のさらなる充実と継続的な展開を図っていきたいと考えておりますので、引き続きご指導・ご協力をお願いいたします。

親と子の建築講座 2009 報告

山形支所 相羽 康郎

親と子の建築講座 2009 「山形県の近代建築と建築家」

11 月 3 日 山形県県立図書館他

講師：志村直愛（東北芸術工科大学准教授）

山形支所では 1 昨年まで小学校 5、6 年生とその親を対象とした「親と子の建築講座」を、CAD 体験する内容で行ってきたが、多くない参加者数はさらに減少していた。昨年は支所事務局を県から大学へ移行したこともあり企画を起こした。市民に親しまれてきた中心市街地の戦前からの近代建築設計者が山口文象であったことが判明し実施した展示会と講演会（講演会約 20 名、1 週間の展示会期中入場者合計 100 名弱）である。今年はまだ「親と子の建築講座」に戻して、山形の近代建築をテーマに実施することとなった。

1 月 3 日文化の日は山形市内山間部で初雪となったがさすがに天気の良いことで有名な日だけあって、何とか市内の天候はもってくれた。しかし小中学校のインフルエンザの流行期に重なり休校が相次ぐなか子供の参加がなく、おとな 8 名の参加であった。講師の志村先生には子供のために、大変平易に建築を説明するプリントを用意して頂きました、ゲーム的に使える建築カードを用意して頂いたが、これらの資料とおみやげを親から子どもへと伝えて欲しいとお願いすることになった。講義会場の県立図書館研修室から徒歩 5 分西に旧県庁舎「文翔館」、5 分東に旧師範学校で教育資料館である山形北高校の一部がある。研修室で西洋建築の受容過程、伊東忠太ら県出身の著名な近代建築家についての講義を受けた後、これら 2 箇所の近代建築を見学した。

文翔館で洋館の魅力である装飾や素材、あるいは当時の暖房方式などの解説を聴いていくと、参加者のなかに文翔館のボランティア・ガイドの方もおられて、その解説もあわせて聞いた。木造の梁・床とレンガ造に外部のみ石張りとした文翔館の中庭にはレンガ積みが露出していて、レンガに囲まれた中庭空間は石張りの外側と異なる魅力があった。

ついで教育資料館に移動し、正面入口脇で様式建築の特徴をしっかりとった木造の小さな洋風建物を眺め、本館内部へと入って学校教育の歴史などの展示物を見学した。正面外部はサイディングを貼ってあるものの、中庭側は板張りのままになっており、木造の外壁や古いガラスの様を見学できた。



再び研修室に戻る道すがら、旧服部邸の東北一とされる庭園がこの通りに面しているなど、この一帯が由緒ある歴史的資産に恵まれた地区であることを再認識した。

大部のチラシを市内小中学校、図書館に配布したが、近代建築がこの年代の子供の興味を引くテーマでなかったこともあろう、子供を連れてこられる親がいなかったのは残念であった。日本の義務教育に地域の近代建築文化を伝える時間はないのか、素養として山形の子供なら伊東忠太らの建築や業績を知って欲しいところだが、現実はその簡単ではない。しかし改めて建築文化の普及が引き続き重要なテーマであることを確認した。

第30回東北建築賞(作品賞)選考報告

選考委員長 西野 敏信

1. 応募作品

・小規模建築物部門	4点
・一般建築物部門	15点
計	19点

2. 選考経過

(1) 事前打ち合わせ会議

2009年9月17日(木) 14:00～

於 日本建築学会東北支部会議室

選考委員長の選出、東北建築賞作品賞募集要項、選考委員会規則などを確認した上で、応募作品の数とその内訳を確認した。東北建築作品発表会の運営方法及び東北建築賞作品賞の選考基準などについて事前打ち合わせを行った。

尚、今回は応募件数が少なかったため、発表8分、質疑3分、入れ替え1分としてプログラムを変更、発表開始を10時とした。

(2) 東北建築作品発表会

2009年10月10日(土) 10:00～

せんだいメディアテーク7階スタジオシアター

第20回東北建築作品発表会において応募19作品の発表が行われた。限られた発表時間の中でそれぞれのコンセプトが紹介され、発表会は全体として滞りなく進められ終了した。時間厳守にご協力いただいた発表者、諸氏に敬意を表したい。

(3) 第1次審査会

2009年10月10日(土) 15:15～

せんだいメディアテーク2階会議室

東北建築作品発表会終了後、会場を移し、現地審査を行う必要のある作品を選定することを目的として、第1次審査を行った。1、企画力、2、技術力、3、地域への貢献・文化度、の選考基準を前提とし、2次審査対象作品として、

約半数の8～10作品を選定するため、発表された作品について部門に関わらず1人5点ずつ投票を行った。その結果より、まず得票数の多かった上位6点を選定し、得票数の少なかった6点を落選とした。得票数が2または3の作品7点について審査員各自意見を出し合い審議を重ねた後で、最終的に1人3点ずつ投票を行った。再投票の結果、得票の多かった上位4点を2次審査対象作品に加えた。この様な手順を経て、小規模建築物部門では2作品、一般建築物部門では8作品が選定された。

次に、現地審査は1作品につき2名以上の選考委員がこれに当たることを確認し、選定された10作品について現地審査の分担を決め、現地において確認すべき点を検討し、作品管理者との連絡を含めた現地審査の日程調整は事務局を通して行う事とした。

なお、1次審査の落選者へは200字程度の講評を審査委員分担で作成し、審査委員会として送付することを確認した。

(4) 現地審査

現地審査については11月1日から2次審査会(2010年1月30日)までの期間中で選考委員の中からの5チームで現地審査が行われた。各審査委員は担当した作品について、2次審査までに審査報告書を提出する事とした。

(5) 第2次審査

2010年1月30日(土) 13:00～

於：日本建築学会東北支部会議室

第2次審査に当たり、今年は応募作品数が少ないこともあり、小規模建築物部門及び一般建築物部門の区別をせず、数についても制限を設けず、作品賞に相応しい作品を選出することを確認した。引き続き、現地審査対象10作品各々について現地調査報告書及び現地写真スライド等により現地審査担当者より報告を受け、その後審査員全員で作品について質疑、討論を行い慎重に審議を行った。審議終了後、部門に関わらず1人5点以内で入選作品を選ぶ事とし、投票を行った。慎重に審議を重ねたこともあり、1回目の投票で明確な結果が現れ、得票数の多いグループを入選とした。結果として、小規模部門については作品賞1点、一般部門については作品賞3点を選出した。

3. 選考結果

小規模建築物部門

作品賞 桂木の家

【所在地】青森県青森市

【設計監理】フクシアンドフクシ建築事務所

【施主】個人

【施工】一級建築事務所モダンハウス

一般建築物部門

作品賞 いわき平競輪場

【所在地】福島県いわき市平谷川瀬字西作1番地外

【設計監理】 日本設計

【施主】 いわき市

【施工】 I・II 記工事：大林組・常盤開発・東部産業・
大和電設工業・クレハ電機機・
クレハ設備・日化エンジニアリング特
定建設工事共同企業体
III 期工事：クレハ錦建設、大和電設工業、
植田電機、小松電工、欣幸・共栄水道
工業所 IV、開世工業

作品賞 木立の中のリラクゼーションオフィス /カスタマーサービスセンター

【所在地】 宮城県

【設計監理】 基本設計/デザイン監修：日本設計
実施設計/施工監理：大林組東北支店

【施主】 外資系金融機関

【施工】 大林組東北支店

作品賞 大船渡市民文化会館・市立図書館 /リアスホール

【所在地】 岩手県大船渡市盛町字下館下 18-1

【設計監理】 新居千秋都市建築設計

【施主】 大船渡市

【施工】 戸田建設・匠建設特定建設工事共同企業体

4. 講評

小規模建築物部門

作品賞：桂木の家

作品は、積雪寒冷地に在りながら、大開口を有する吹き抜け空間を中心に構成され、室内空間の開放性や高い採熱・採光性能を創出している。大開口を有するが故に、冬期の温熱環境に不安を感じたが、蓄熱暖房器を床下に配することで、基礎コンクリートが蓄熱体として暖房効率を高め、ペアガラスや樹脂サッシなど、従来の工法や材料が十分に要求性能を満たすことで快適な住環境を構築している。各階の床材や水回りに用いられた青森ヒバの無垢材は、地産地消による産業振興やコストパフォーマンス、シックハウス対策に貢献している。また、ガルバリウム鋼板で構成された外観は、一般的に冷たい印象を与えるが、大開口から垣間見える内装の木目と暖色照明により、行灯のような優しい暖かさを与えてくれる。さらに、歩行者専用道路に隣接されたテラスは、近隣の児童や高齢者に気兼ねなく利用され、設計者の意図した「周辺地域への開き方」を体現する場となっている。積雪寒冷地において、大面積の開口と快適な温熱環境を両立させ、地域社会に開かれた本作品は、暗く閉鎖的な印象を与える寒冷地住宅のイメージを払拭する新たな建築への試みとして高く評価できる。

一般建築物部門

作品賞：いわき平競輪場

競輪場はギャンブル施設としての負のイメージを払拭する

ことが極めて困難な建築物である。それが住宅地に近接して存在するというのであれば、必然的に周辺住民への十分な配慮、施設としての地域への融合性の確保という難題に直面することになる。いわき平競輪場はバックスタンドを地域開放型の施設として位置づけ、「サイクルハウス」と称する小集会施設を併設すること、トラックに囲まれる中央部分を市民広場として開放することなどで、地域との共生という困難な命題を克服した。施設そのものについても、アルミ管のルーバー使用による省エネルギー効果および視覚的効果の創出、三次元 PC の利用によるバンクの実現、バンク下階の利用による車両収容スペースの確保など、様々な技術やアイデアが見られ、それらは十分に評価できる。技術の高さ、アイデアの斬新さ、地域との共生ができる新しい競輪場の現出という困難なコンセプトの実現、施設の完成度の高さは十分に受賞に値するものである。

作品賞：木立の中のリラクゼーションオフィス /カスタマーサービスセンター

「働く人たちの生活の場としてのアメニティ」を重視するというクライアントのコンセプトを実現させた作品。職住近接を理想に、周辺の山々を眺望できる郊外住宅地の一角に建つオフィス。将来は本社機能の移転も視野に計画されたという。

丘陵地の雑木林に囲まれた広大な敷地の中に、埋もれるように建つこのオフィスは、2階の低層に抑えられ、羨ましいような環境の中にある。外観のデザインは緑豊かなこの環境に、傾斜したガラスカーテンウォール、樹木のような柱、それに不整形なプランとブラウン系の色彩で応答している。内部はリラクゼーションスペースに多くの面積が配分され、短時間でリフレッシュできるよう計画されている。またブラウン系のグラデーションでまとめられたインテリアは音環境にも配慮され、落ち着いたホテルのような趣が印象的である。立地も含めて、今後のオフィスの在り方に指針を与える作品として評価された。

作品賞：大船渡市民文化会館・市立図書館 /リアスホール

設計者らがファシリテーターとなり、企画段階から開館に至る各段階で市民参画のワークショップや市民グループによるイベントなどを頻繁に開催し、その過程で市民と対話し、施設運営を支援する市民ボランティアの育成・組織化も図った。その企画構想と実行力は大変に優れている。

建築意匠面では、大船渡の景観要素であるリアス式海岸と穴通磯をデザインモチーフに取り入れ、施設全体の意匠を巧みにまとめている。建物外観は写真では奇抜な印象も受けたが、現地では違和感なく、市民には象徴的であり、地域外からの来館者には大船渡の地域イメージを記憶させるのに成功している。リアス式海岸を RC で表現した構造には若干アクロバティックな感もあるが、解析技術を駆使し、施工的な苦心・工夫の跡が見られ、設計者と施工者が協力して難解な建物を作り上げた技術が評価できる。

開館から1年間あまり非常に多くの来館者数と高い施設稼働率を実現し、地域で活用されている。企画・設計・ディテール・運営に至る迄つくり込まれた完成度の高い建築であり、作品賞に値する。

第30回東北建築賞作品賞選考委員会

選考委員長

・西野 敏信：東北工業大学

クリエイティブデザイン学科

委員

・五十子幸樹：東北大学大学院工学研究科

都市・建築学専攻

・最知 正芳：東北工業大学建築学科

・権代 由範：宮城工業高等専門学校建築学科

・中田 千彦：宮城大学事業構想学部

デザイン情報学科

・原田 栄二：東北大学大学院工学研究科

都市・建築学専攻

・西川 竜二：秋田大学教育文化学部生活者科学講座

・平岡 善浩：宮城大学事業構想学部

・水戸部裕行：(株)羽田設計事務所

・京谷 国雄：日新設計(株)

・西田 哲也：秋田県立大学建築環境システム学科

第30回東北建築賞(研究奨励賞)選考報告

選考委員長 松井 壽則

1. 選考経過

第30回東北建築賞研究奨励賞に建築計画部会から1件の応募があり、平成21年12月25日(金)午後1時から東北支部会議室にて選考会を開催した。

なお、出席審査委員は7名であり、委任状提出審査委員7名、残る1名は当該応募論文に関連があるということから審査辞退の届けが提出されている。

応募件数が1件ということもあり、委任状の選考報告を確認の後、予備選考と本選考を兼ねた選考会を行った。

2. 選考結果

応募論文は協坂氏の「建築内部空間における視覚体験の記述方法に関する研究 その1 -現代建築の分析に向けた遮蔽縁シーンプックの開発-」と「遮蔽縁シーンプックの不連続点と視覚体験における分節点との対応 -建築内部空間における記述方法に関する研究-」のそれぞれ2007年、2008年の2カ年に涉り本支部の研究報告集に掲載されたものである。

現代建築にある流動的空間の評価をするための新しい空間記述手法の確立を試みたもので、生態学の知見をもとに、移動しながらの空間認知の性質を取り込むための手法の意義と

可能性について考究している。また丁寧に既往研究を分析し目的の構築を行い、遮蔽縁シーンプックの創出をしている。さらにシーンプックによる心理実験を行い、空間記述手法の新たな提案を行った点などに評価が寄せられた。また、日本建築学会技術報告集に展開しており、学位論文にまとめられている点も大いに評価できるものとして東北建築賞研究奨励賞に値することが出席委員並びに委任状提出委員の全員で確認された。

おわりに委員の中から被験者の属性について今後の課題であるとの指摘があったことを記す。

第20回東北建築作品発表会報告

常議員(社会文化) 西田 哲也

平成21年10月10日(土)にせんだいメディアテーク7階スタジオシアターにおいて「東北建築作品発表会」を開催した。本作品発表会の目的は「東北地方における優れた建築活動を広く人々に知っていただくこと、それを記録し、設計者および建築関係者の相互の研鑽の場とし、もって東北地方の建築にとっての共通課題の探求にあたること」である。

今年度は、小規模建築物部門4作品、一般建築部門15作品の計19作品の発表が行われた。これらは過去5年間に東北地方に建設されたものであり、設計者・発注者・施工者が自信をもって世に送り出した建築作品とすることができる。発表会では、1作品につき8分の持ち時間で設計者から作品のコンセプトやアピールポイント、地域との関わりなどについてのプレゼンテーションがあり、その後、3分という短い質疑応答の時間ではあったが、活発な意見交換がなされていた。

このように内容的には非常に充実した発表会ではあったが、応募作品数が昨年度の2/3に減少し、参加者も約100人と若干少ない状況であった。今後、広報活動に力を入れ、より多くの皆様にご応募・ご参加いただけるよう努めて参りたい。なお、本発表会の作品は日本建築学会東北支部発行の「東北建築作品集2009」に収録されているので、是非ご覧いただきたい。

第29回東北建築賞表彰式及び展示会報告

常議員 (社会文化) 西田 哲也

第29回東北建築賞表彰式は「みちのくの風2009 福島」の初日、6月20日にコラッセふくしまにて行われた。東北建築賞を受賞した建築作品、研究論文は合計8点であり、その内訳は、建築作品については小規模部門で作品賞2点、特別賞1点、一般部門で作品賞4点、研究論文については研究奨励賞1点である。表彰式では、針生審査委員長より作品賞、特別賞について、月館審査委員長より研究奨励賞について選考経過報告と講評が行われ、続けて各受賞者には井上支部長から賞状、賞杯が贈られた。表彰の後、受賞記念講演会が行われ、各建築作品がスライドにより紹介された。また、受賞作品のパネル展示会は6月20日、21日の2日間、展示室にて行われた。その後、東北建築作品展として東北5県の支所などで巡回展示された。本表彰式、講演会、パネル展示会は、ご講演の各位、委員長はじめ選考委員、福島支所及び支部の関係者・スタッフ、受賞者並びに作品・論文応募者の方々の準備と協力により開催することができたものであり、関係各位にこの場を借りて深く感謝申し上げたい。

作品選集 2010 東北支部選考経過報告

東北支部選考部会長 本江 正茂

東北支部への応募作品数は15点。2年間応募数一桁が続いていたのでやや持ち直したといえる。内訳は文教施設5、個人住宅4、集合住宅1、宿泊施設2、オフィス、工場、福祉施設。うち2作品は改修であった。7月2日に第一次選考を全委員(本江正茂、崎山俊雄、佐久間治、月館敏栄、時野谷茂、前田卓、三浦秀一)で行い、選考基準を確認のうえ資料をもとに各委員が投票し、現地視察対象11点を選出した。作品は岩手1、山形1、福島3、秋田1、残り5点は宮城、特に仙台近辺に集中したが、アクセスを考慮して一カ所二名を原則に分担を決めた。また、仙台市内の住宅3作品については第二次選考当日に全員で見ることとした。当日の交通事情により、実際には時野谷委員を除く6名での視察となった。

8月9日の第二次選考では、各委員による現地視察結果の報告後、再度選考基準に照らして意見交換を行い、特に優れた2作品をAランク、他4作品をBランク、細部扱いや環境配慮の面で議論があるものの街並み形成への意欲を評価できる1作品をSランクとして推薦することとした。

A ランク

八木山本町の住宅

国際教養大学(AIU)図書館棟

B ランク

MARUWA QUARTZ 三春工場4号棟

囲い庭に埋もれる平屋

鶴岡市立第二中学校

小規模多機能ホーム「我が家」

S ランク

ヴィア定禅寺(佐久間治)

2009年度日本建築学会設計競技

東北支部審査報告

審査委員長 田村 宏治

今年の課題は「アーバン・フィジックスの構想」である。東北支部には11点の応募があり、平成21年7月9日、日本建築学会東北支部において支部審査会が行なわれた。出席者は平岡善浩(宮城大)、田代久美(宮城大)、田村宏治(みちのく設計)の3名の審査委員である。(2名欠席)。委員の互選により、審査委員長として田村委員、議事録作成者として田代委員が選ばれた。続いて、上位3~4点を支部入選とすることを確認の上、出席者3名がそれぞれ4点の作品を選び、意見交換を行い選考を進めた。

減少しているガソリンスタンドを雪や雨水を利用した地域施設への再生を計画した「R7-日本海式-ガソリンスタンドの転用計画」、地下鉄で発生するエネルギーを変換し都市や人々の暮らしに還元する試みの「gift」、青森黒石の伝統保存地区の再生計画の「こみせ がぐじ」の3点の作品が3票を得た。また都市のヒートアイランド現象ともなっている駐車場をみどりの止まり木とする「トマリギ」の提案を加え、以上4点を支部入選作品とし全国審査に選出した。

今回の課題は都市を構成する物理的な環境条件を、いかにして人間のための好ましい環境にしていくか、という地球環境の問題に迫る難しい課題であり手に余る部分があった。これからは身近な問題として取り組む必要があります。

2009 年度東北支部研究報告会報告

常議員 (学術教育) 増田 豊文

2009 年度東北支部研究報告会は「みちのくの風 2009 福島」として、2009 年 6 月 20 日(土)・21 日(日)の両日、福島市のコラッセふくしまを会場に開催された。発表論文題数は、計画系 65 題・構造系 56 題であり、合計 121 題となった。4 会場に分かれ、計画・歴史意匠・環境・構造・材料施工の各分野ごとに、活発な意見交換がなされた。これらの発表論文は、「日本建築学会東北支部研究報告集 72 号」として、収録・刊行された。研究報告会とは別に、初日の午前中には計画・環境部門として大月敏雄氏(東京大学大学院工学系研究科建築学専攻/准教授)による招待講演「戸建て住宅団地の住環境運営」、構造・材料部門として川口健一(東京大学生産技術研究所/教授)による「新しい構造システムへの挑戦」の講演会が開催された。午後には、「ユニバーサルデザイン環境の現状と課題」と題して、狩野徹氏(岩手県立大学社会福祉学部/教授)をコーディネータにパネルディスカッションが実施され、続いて、第 29 回東北建築賞表彰式・受賞記念講演会が開催された。いずれの企画も多くの参加者を集め、盛況のうちに二日間の幕を閉じる結果となった。

報告会に参加された方々をはじめ、準備運営に携わった関係各位に、深く感謝を申し上げたい。

2009 年度日本建築学会東北支部総会報告

常議員 (総務企画) 渡邊 浩文

日時：2009 年 5 月 16 日(土) 13:30 より

場所：仙台市情報産業プラザ AER 6 階セミナーホール

出席者：61 名(委任状含む)

資料 No. 1：日本建築学会東北支部年報 29 号

資料 No. 2：2008 年度日本建築学会東北支部財産目録

2008 年度日本建築学会東北支部収支決算書

会計監査報告書

2009 年度日本建築学会東北支部収支予算書(案)

本江正茂常議員による開会宣言の後、同常議員の司会により、以下の要領で総会が行われた。

1. 出席者数及び委任状の確認

出席者 29 名、委任状 32 通、合計 61 名の確認があり、東北支部会員 1,179 名の 1/30 (40 名) 以上に当たるため、本総会が成立することが確認された。

2. 支部長代行挨拶

渡邊浩文支部長代行による挨拶があり、補欠選挙の経緯、2009 年度大会が東北にて開催されること等に関して説明がなされた。

3. 議事録署名員の選出

出席者の中から議事録署名者として、浅里和茂氏及び石川宏之氏が選出された。

4. 議事

東北支部規程により、渡邊浩文支部長代行が議長を務め、以下の事項について審議された。

(1) 2008 年度事業及び会計に関する件

1) 2008 年度事業

佐藤健常議員より、資料 No. 1 の支部年報 19～21 ページの「2008 年度事業報告」にもとづき、2008 年度事業内容が報告された。

2) 2008 年度収支決算

我妻孝幸常議員より、資料 No. 2 の「2008 年度日本建築学会東北支部財産目録」及び「2008 年度日本建築学会東北支部収支決算書」にもとづき、2008 年度収支決算が報告された。

3) 会計監査結果

横山直樹支部監事より、資料 No. 2 の会計監査報告書の通り、2008 年度の会計内容については疑義のない旨の会計監査結果が報告された。

2007 年度事業、収支決算及び会計監査結果に関する報告内容について審議した結果、特別な問題指摘もなく、これらの事項が承認された。

(2) 支部規程の改訂に関する件

松井壽則常議員より東北支部規程および研究委員会規則の改訂案が説明され、審議の結果、原案通り承認された。

(3) 2009 年度事業及び会計に関する件

1) 2009 年度事業計画(案)

松井壽則常議員より、資料 No. 1 の支部年報 22～23 ページの「2009 年度事業計画(案)」にもとづき、2009 年度事業計画が説明された。市岡綾子前常議員より、8 月末の大会開催時に併せて開催される支部主催の関連行事について紹介された。

2) 2009 年度収支予算(案)

我妻孝幸常議員より、資料 No. 2 の「2009 年度日本建築学会東北支部収支予算書(案)」が説明された。2009 年度事業計画(案)及び収支予算(案)について審議した結果、特別な問題指摘もなく、原案通り承認された。

以上の議事終了の後、司会者により閉会が宣言され、2009 年度日本建築学会東北支部総会を終了した。

研究部会活動報告

(1) 歴史・意匠部会

「災害を考慮した歴史的建造物の
データ・ベースと活用方法」

部会長 狩野 勝重

2009年度の活動報告をするに先立って、歴史・意匠部会においては、数々の業績を遺された草野和夫元東北工業大学教授が、6月18日にご逝去されたことをご報告しておきたい。享年79才であった。合掌。

一方、喜ばしい内容として、飛ヶ谷潤一郎君（東北大学）が「盛期ルネッサンスの古代建築の解釈」と題する研究で、建築史学会賞を受賞したことを報告しておく。

ところで、2009年度は東北において全国大会が開催されたこともあって時間的に余裕がなく、部会活動は大会終了時以降に集約されざるを得なかった。その第一弾が、現在解体修理工事に着手されている瑞巖寺の見学会で、12月5日のことで、各部位の確認をしながら今後の修理計画を検討している段階で、耐震計画への対応は今後の問題である旨の説明があったが、そのほかの特筆すべきことは、壁画のカビによる劣化である。第二弾が年度末ぎりぎりの3月27日に開催された「歴史的建造物の固有振動について」と題した研究会である。

歴史的建造物に関するデータ・ベース作成作業からさらに一歩進め、構造系の会員と協働して歴史的建造物の常時微動測定を行い、その結果から固有周期および卓越周波数を特定し、地震観測時の状況を推定しようとする試みである。本年度の調査対象とした建造物は、①富山県滑川市の「杵の内」と呼ばれる吹き抜けを持つ民家7例、②福島県いわき市の高蔵寺三重塔を三辻和也・永井康雄・佐々木達夫の3君が、③福島県隠津島神社三重塔、④福島県法用寺三重塔、⑤福島県法用寺観音堂、⑥福島県叶山願成寺念仏堂を日比野巧君が担当し、最後に⑦福島県叶山願成寺本堂・念仏堂の江戸前期に置ける浄土宗寺院としての文化的価値と現在の損窮状況について狩野勝重が報告し、討論を行った。

まだまだ事例が少なく、直接今回の測定に拠って早急な結論は得られないものの、持続的な調査データは、文化財の修理・保全という観点から多くの成果が得られるであろうことを予測させるものであった。



本堂



念仏堂



山門

因みに、福島県叶山願成寺本堂・念仏堂・山門は、今回の調査の結果福島県の文化財として指定されている。

(2) 建築計画部会

部会長 石井 敏

今年度は東北での大会開催ということで、部会メンバーもさまざまな大会関連業務／行事に直接・間接的に関わること

が多かったため、見学会・研究会など部会としての活動は特に行わなかった。

大会期間中は、建築計画委員会の懇親会を企画し（ホテルメトロポリタン仙台）、例年を多く上回る150名以上の参加者を集め、盛況のうちに終えることができた。

その他、メーリングリストを活用して、部会メンバー間の情報交換を行い、適宜、各地で行われる研究会の案内などを発信した。2010年度は、見学会および研究会を上期・下期それぞれで企画・実施すべく案を検討しているところである。見学先の候補、研究会の企画案などご提案があればいつでもご連絡いただきたい。また、各地で行われる研究会等の案内もメーリングリストを使って配信できるので、情報をお寄せいただければ幸いである。

(3) 地方計画部会

部会長 増田 聡

今年度も防災まちづくりを部会活動のメインテーマとした研究活動と一般公開の市民フォーラムの企画運営を行った。

研究活動としては、一昨年度の本部研究補助費で実施した「Web-GIS等を活用したコミュニティ防災力の評価と高度化」の研究テーマを継続し、対象地域に旧河南町(石巻市)と旧鹿島台町(大崎市)を追加して、町内会アンケートによるコミュニティ防災力の地域間格差等について検討を進めた。想定宮城県沖地震が発生した場合、地震リスクの地域差が大きい一方で、町内会や自主防災組織といった地域コミュニティの組織的な地震への備えはリスクと相関なく一様に高くはない現状を再確認するとともに、旧郡部での防災力の特徴や組織運営上の課題等を抽出した。全県的に宮城県沖地震の再来が迫る中、リスク調和型のコミュニティ防災力の高度化に向けて、部会活動を通じた社会貢献のあり方の議論を深めていきたい。

また、昨年度に引き続き「第5回災害に強いコミュニティのための市民フォーラム：宮城県沖地震の再来に向けた防災と福祉の地域連携（2010年3月7日、フォレスト仙台、宮城県沖地震対策研究協議会主催、地方計画部会共催）」を開催し、関係学協会や諸団体との連携協力に基づいて、ワンポイント防災セミナー、救護の達人コンテンツ、地域防災活動のパネル・ポスター展示を行い、防災まちづくりのための社会貢献活動を実施した。

最後に、都市計画学会東北支部の設立に向けた動きが現在進みつつある。部会員や活動場面が重なる場面も想定されるので、地方計画部会としても今後の連携方策を検討していきたい。

(4) 構造部会

部会長 植松 康

本年度の構造部会では、時宜に応じたテーマで講演会を2回開催した。本原稿の執筆時点では未実施であるが、年度末にもう1回の講演会開催を予定している。また、本年度は東北支部が大会の開催地となったことから、関連イベントであるアーキニアリング・デザイン展及び記念講演会にも多くの構造部会員が協力・参加することとなった。

本年度第1回目の構造部会では、昨年の4月6日に発生したイタリア・ラクイラ地震の調査報告を部会員の東北大学大学院迫田助手が行った。ラクイラ地震の調査報告会は東京などでも行われていたが、この報告を東北支部でも聞く機会を構造部会として設けたことは意義があったと思われる。

第2回目の構造部会は、近畿大学 薛 松濤准教授をお迎えして「超長期利用建物のヘルスマonitoringの基礎研究」と題して講演会を開催した。ヘルスマonitoringは、近年関心を集めている環境保護の観点から、建築物を長期間に渡って利用していくための要素技術と位置付けられる。この講演会では、近畿大学 薛准教授が近年行っている研究が紹介された。

本原稿の執筆時点では未実施であるものの、設計の想定を超える地震動入力を受ける超高層建築物の変形集中現状と、超弾性合金を用いた制振システムについて、京都大学大学院 荒木准教授による講演会の開催を年度末に予定している。

以上のように、本年度の構造部会では講演会の開催を軸として、時宜に応じた情報の収集と部会員同士の情報交換・交流の場を設けることを活動の中心とした。講演会開催以外の活動としては、大会関連イベントのアーキニアリング・デザイン展とその記念講演会（講師：斉藤公男前会長）の開催にあたり、部会員の協力・参加を得た。

(5) 環境工学部会

部会長 渡邊 浩文

環境工学部会は、「東北地方の建築・都市の統合的な環境負荷削減のあり方に関する研究」を課題としながら、1)他分野との連携、2)地元のニーズ配慮に留意しつつ系統的な部会活動を行っている。

具体的には部会開催時に上記に関連する研究者による勉強会の開催と、市民向けあるいは専門技術者向けの研究会・見学会等の開催である。また建築士会東北支部のメーリングリストに参加し情報の相互流通を図ることで他分野との連携を徐々に深めている。

今年度の活動を列挙すると下記の通りである。

1. 部会および勉強会の開催

①5/14 第1回部会

②9/10 第2回部会

③12/10 第3回部会および勉強会「バリアフリーデザイン関連

委員会の現状報告と研究活動について；安部信行先生

2. 研究会などの開催

- ①6/30 シンポジウム「住宅の結露問題」
- ②10/15 市民向け公開講演会「人のくらしと精神、環境と技術を考える」
- ③10/16 市民向け公開講演会「100万人のストップ・ザ・温暖化」
- ④11/7 第57回東北環境設備研究会・新エネルギー・シンポジウム「いまこそ地熱発電」
- ⑤2/22 第58回東北環境設備研究会「環境設計におけるBIM技術応用と期待」

3. その他

特筆すべき今年度の活動として、支部提案による「高齢社会の環境・設備」が全国大会開催時の研究協議会として開催されたことを挙げられる。企画および運営を当部会が主体的に遂行した。

(6) 材料部会

部会長 三橋 博三

2009年度は前年度から継続し、「サステナビリティ確保に向けての建築材料学教育のあり方に関する調査研究」をテーマとして活動に取り組んだ。今年度は今までの調査成果を踏まえて、教育ツールとなる具体的な資料の作成について検討していくこととした。

第1回部会は5月15日に開催され、これらの活動方針を確認すると共に、実際に講義に用いている教材をたたき台として改善点を検討することとした。第2回部会（11月30日）、第3回部会（2月12日）では、具体的に模擬講義を行って講義の要点などを確認し、教材として必要な情報をさらに収集することとした。

一方、小野英哲先生（前東北工業大学教授）が、退職に伴って東北支部材料部会を去られるにあたり、先生が取り組まれてきた研究テーマを総括して頂き、「建築仕上げ材料に必要な性能をいかに捉えるか？一床を対象とした安全性・快適性の考え方」（7月31日／仙台市戦災復興記念館）と題したシンポジウムを開催した。小野先生の基調講演に続き、先生の教えを受けた三上貴正氏（東京工業大学大学院准教授）、横山裕氏（東京工業大学大学院准教授）、高橋宏樹氏（ものづくり大学教授）、古賀純子氏（独立行政法人建築研究所主任研究員）、工藤瑠美氏（独立行政法人建築研究所専門研究員）の5名のパネリストに、それぞれの専門分野から仕上げ材料の性能とその評価方法について解説頂いた。講演内容は床仕上げ材料を中心とする性能論を幅広く網羅した貴重な内容であった。シンポジウムの具体的内容は「月刊建築仕上げ技術」12月号（工文社：<http://www.ko-bunsha.com/>）に詳しく掲載されているので、興味のある方は是非ご覧いただきたい。また小野先生がこれらを纏めた建築性能論の執筆に取り組まれるとのことで、

上梓を大いに期待する次第である。

(7) 施工部会

部会長 笠松 富士夫

本部会の平成21年度の活動について報告すると、定例の部会を5月、7月、10月、12月、翌年2月の5回開催し、5月の部会は現場見学会も兼ねて実施開催した。本部会のメインの活動としては、建築物生産活動においても常に環境負荷を意識する時代となっていることから、数年前から「東北地方における建築物リニューアルの実態と改修技術の調査研究」のテーマで取り組んで収集してきた工事例集を年度内に製本刊行することができたことである。

この事例集の大きな特徴は工法例を①屋根、②外壁、③構造体、④内部、⑤建物全体、⑥設備の6区分に分類しそれらの工法を紹介するとともに、更には環境負荷軽減に対する評価を行ったことである。掲載されている工事例は60例にのぼり、民間の建設会社に所属する委員の多い当部会ならではの研究報告書ではないかと自負している。

5月13日の第1回部会は「仙台一番町プロジェクト新築工事」の現場見学会も併せて実施した。同新築工事は仙台の中心部一番町に建設されているものであり、地下2階・地上37階・塔屋3階の建物である。竣工後は476もの駐車台数を持つホテル、オフィス、店舗として使用され、今後仙台市中心部のシンボルの複合ビルとして機能することが大きく期待されている。平成22年4月には完成の予定であり、政令指定都市にふさわしいすばらしい建物として多くの市民に親しまれるものと思われる。

21年度で本部会のメインの活動にしている数年来からの研究テーマが一段落をし、22年度からはまた新しいテーマを掲げ取り組んでいく計画である。

(8) 建築デザイン教育部会

部会長 相羽 康郎

ここ3年ほど、当部会では東北各地の大学・高専における設計教育の内容を情報共有して、そのねらいや成果・課題について考えてきた。とくに昨今は、学生も自らまちに出るなど、リアルなものを求めている様子が伺える。また地域でも、建築家と大工さんの中間的職能、あるいは滋賀県立大らが提唱するコミュニティ・アーキテクト（CA）のように、地元の問題、まちづくりの課題を考えることが求められている。つまり、先駆的な建築家教育だけでなく、具体性、現場性、社会性を問う創造教育もあってよいのではないかと、という点である。



そこで今年度は、アトリエ・ワンの野田直希氏を招致して、ミニシンポジウムを開催した。会場は、仙台市河原町にある大正元年創建の旧仙南堂薬店で、仙台市景観重要建造物に指定されているところである。部会員の参加は少なかつたものの、分野横断的に市民20名ほどが参加し、有意義な時間をもつことができた。

野田氏は、2006年に筑波大大学院・貝島研を修了、2008年よりアトリエ・ワンのプロジェクトスタッフとなった若手建築家である。2007年に金沢21世紀美術館の招待アーティストとして、同事務所が長期インスタレーションを出展することがきっかけで、町家の多い金沢をどう活かすかという観点から、町家再生プロジェクトを開始、その初期から関わってきた。野田氏自身は2年前から金沢に住み込み、アトリエ・ワンの仕事をしたり、地元の設計事務所と一緒に町家の改修をしたりしながら、現在3つの町家の管理人をしているという。その創作活動もユニークながら、地元の金沢工大、金沢美術工芸大、石川工業高専、福井大らに声かけを行い、まち調査を行ったり、実際に町家再生工事を職人と学生が共同ですすめたりと、作家的個人的創作活動を越えた創造的教育の場になっていることが印象的であった。もちろん、そのコーディネートには、同事務所のみならず、美術館のキュレーターや各大学の教員スタッフらの協力があるようだが、具体性、現場性、社会性の点で成果ある活動であり、東北地方における建築デザイン教育に示唆を与える点は少なくなかった。

以上、催しとしては実りあるものであったといえるが、通年活動や市民への公開度の点では、未だ部会活動は十分とはいえない。次年度に向けての課題としたい。

(9) 災害調査連絡会

部会長 源栄 正人

2009年度は本部災害委員会の市民企画講座の助成を受け、東北支部地方計画部会との連携のもと、「生涯教育（学びのコミュニティ）の活動と連携した市民防災講座」を開催した。第一弾企画は、2009年8月11日（火）に仙台市立長町南小学校で開催された防災講座「地域の自然と歴史を学んで、地震

に備える」であり、仙台市長町地区の一般住民と小学生児童を主対象とした。第二弾企画は、2010年3月7日（日）にフォレスト仙台で開催されたワンポイント防災セミナー「宮城県沖地震の再来に向けた防災と福祉の地域連携」であり、宮城県下の市町村に対して広く参加を呼びかけた。共催機関は仙台市における生涯学習の枠組みの一つである学びのコミュニティながまち推進委員会、宮城県沖地震対策研究協議会などであり、宮城県、仙台市などの後援を得た。

第1弾企画の防災講座には、行政職員や市民など42名の参加があった。昭和53年宮城県沖地震を長町地域で実際に体験された3名のゲストと村山良之氏（山形大）を聞き手とした座談会「昭和53年宮城県沖地震による長町界隈の被害」が行われ、長町地域の災害特性と災害教訓が再確認された。第二弾企画のワンポイント防災セミナーには、行政職員や市民など約160名の参加があった。セミナーのテーマは、第一弾企画の活動成果として浮かび上がってきた問題として、「災害時要援護者」が扱われた。

また、2009年度は海外において、2010年1月12日ハイチの地震(Mw7.0)、2010年2月27日チリ中部沿岸の地震(Mw8.8)などの巨大地震が発生したが、幸いにして東北地方で発生した地震災害や自然災害はなかったため、災害調査連絡会としての調査活動は行わなかった。

(報告：佐藤 健 東北大学)

支所だより

青森支所

青森支所長 盛 勝昭

2009年度の青森支所の活動状況について報告いたします。6月26日、10月9日、幹事会を開催し『JASS5 鉄筋コンクリート工事改定研修会』等の年間事業計画を策定し、その後、研修会実施に向けて細部を決定してまいりました。

また、7月24日に開催されました『全員協議会』においては、2009年10月1日施行の『住宅瑕疵担保履行法』について、財団法人住宅保証機構まもりすまい保険の損害調査員を務められておる沼田実氏に、『住宅瑕疵担保履行法』の概要及び具体的な現場の事例等について講演していただきました。

年明けて2010年2月5日『JASS5 鉄筋コンクリート工事改定研修会』では、コンクリート学会で活躍されている八戸工業大学土木建築工学科の月永洋一教授に講演していただきました。なお、本研修会は青森県・(社)青森県建築士会・(社)青森県建築士事務所協会・(社)青森県建設業協会・(社)日本建築家協会東北支部青森地域会・(社)日本建築構造技術者協会東北支部青森ブロック等、青森県及び5団体からの後援をいただきました。

研修会当日は、雪の降りしきる悪天候にもかかわらず、欠席者も少なく、50名余りの方が熱心に受講されました。

研修会を無事終え、講師を囲んでの懇親会では、久々の「学会らしい研修会」を実施できたと、充実感に浸りながら建築談義で大いに盛り上がりました。

なお、2009年度の『東北建築賞受賞作品展示会』は、10月10、11日の両日八戸工業大学を会場に開催され好評を得ました。

秋田支所

秋田支所長 安原 盛彦

支所事務局が秋田県立大学に移ってから三年目となりました。コンパクトに活動が行われていますが、秋田市内の建築学会員の方々が熱心に協力して下さるようになり、また委員会に新しい委員が加わり、今後活動の充実を目指しています。

活動状況は、例年のように建築学会東北建築賞・作品賞のパネル展示を秋田県立大学・システム科学技術学部のオープンキャンパスに合わせて行いました。これには全国大学・高専卒業設計展示会も同時に開催され、盛況でした。

また三十七回続いています設計コンクールの「第38回秋田県工業系高校生徒による建築設計作品コンクール」を昨年、評判のよかった秋田駅に隣接するアルヴェで開催しました。

六校、十四点の応募があり、平成22年2月24日に審査し、2月27日、秋田県知事賞を始めとする表彰式の後、審査員がそれぞれの作品講評を担当し、パネル展示されている作品の

前で生徒を前に講評、質疑を行いました。参加した生徒達及び指導教員が作品の評価を直に聞くことが出来たことで、生徒、指導教員から好評でした。

作品展示においても工業高校の協力を得ることが出来、高校生・教員が作品展示に積極的に参加し生徒、教員、学会と三者が共同作業して開催したコンクールとなりました。会場は市民が自由に入れるオープンな場所でしたので、積極的に見に来られた方々ばかりでなく、立ち寄ってみられる方々も多く、今後もこの場所で続ける予定です。

長期間に渡って続くこの設計コンクールを通じて秋田県内の高校・大学の教員の交流が促進され、高校・大学連携が実際に進んでいます。高校生による大学の建築授業への参加、このコンクール出展生徒の秋田県立大学建築環境システム学科入学等々です。

また、秋田支所として設計コンクールや廃校になった小学校の活用を目指す企画などへ、後援というかたちでも活動を広げています。

岩手支所

岩手支所長 大水 敏弘

今年度は、8月25日に第19回景観ルックインが支所協賛事業として県内で開催されました。

景観ルックインは、建築学会景観小委員会が、日本建築学会大会にあわせ開催しているもので、今回は、「平泉と蔵のまち江刺の景観まちづくり」をテーマといたしました。平泉では平安時代後期に奥州藤原氏が浄土思想に基づき建設された政治・行政上の拠点で、現在は多くが遺跡となっていますが、金鶏山などの周辺地形を取り入れ具現化したとされるかつての都市を、観光ガイドによる歴史解説を聞きながら追体験していただきました。



景観ルックイン (奥州市江刺区蔵町モール)

また、江刺では、江戸時代に北上川の舟運で栄えた当時の「蔵」を活用したまちづくりを見学し、「近世の遺産を活用した現代の景観まちづくり」をテーマに、シンポジウムで意見交換が行われました。

県外からも多くの方に参加いただき、岩手を知っていたことや地域の方との交流を通し、建築学会の活動が、今後の地域の景観形成に活かされていくものと期待していると

ころです。

また、11月16日には支所後援事業として盛岡市制施行120周年記念事業「第33回盛岡市景観シンポジウム」が開催されました。



第33回盛岡市景観シンポジウム

シンポジウムでは、盛岡市景観条例の施行を受け、景観の大切さを再認識し、次世代に継承するための景観形成のあり方について、東京大学大学院の西村幸夫教授による基調講演のほか「潤いと彩りのあるまちづくりの風景づくり」をテーマにパネルディスカッションが開催されたところです。支所では今後とも、建築関係の見識を深めるための行事の開催や後援を通して、地域の建築活動との連携や地域社会との交流を図っていきたくと考えています。

山形支所

山形支所長 相羽 康郎

昨年度より山形の近代建築と建築家をテーマに活動する方針とし、今年度は「親と子の建築講座」も再開した。11月3日山形県県立図書館で「山形県の近代建築と建築家」として東北芸術工科大学准教授の志村直愛氏に講義いただき、近傍の旧県庁舎文翔館、県教育記念館の見学案内をしていただいた。インフルエンザの流行期に重なり休校が相次ぐなか残念ながら子供の参加はなく、おとな8名の参加であった。志村先生には子供のために、大変平易に建築や伊東忠太ら建築家を説明するプリントを用意して頂きました、ゲーム的に使える建築カードを用意して頂いたが、これらの資料とおみやげを親から子どもへと伝えて欲しいとお願いすることになった。

産業遺産ともいえる近代建築が小国町に残っているとの情報が入り、昨年度の梅月堂（山口文象設計）に引き続き情報提供者に企画をお願いし、年度も押し詰まった3月1日に参加者8名で見学会を実施した。長者原水力発電所と社寮の設計者は内藤多仲である。社寮では地元出身の本間元所長から、故土光敏夫氏（第4代経団連会長）に寮の建物が大切だから不調法なことをするなど直接言われたなど興味深い話を聞き、現在も利用されている趣ある建物を見学。その後水力発電所に移動し、背の高い建物内部の轟音の中、3つの発電機のタービン垂直軸が、高い空間をクレーンで持ち上げられ7年ごとに手入れされ、建設当時から70年間稼働し続けている事実に

一同驚いた。今後も近代建築を支所活動のテーマとしていくことの意義を実感した1日であった。

福島支所

福島支所長 野内 忠宏

2009年度の福島支所の活動状況について報告いたします。今年度は、(社)日本建築学会東北支部主催による『みちのくの風2009福島』と福島支所主催による『建築を考える環境講座』及び『まちづくりフォーラム』を開催いたしました。

『みちのくの風2009福島』は、6月20日、21日の2日間にわたり福島市の「コラッセふくしま」を会場に開催され、川口健一東京大学教授と大月敏雄東京大学准教授による講演、ユニバーサルデザイン環境の現状と課題をテーマとしたパネルディスカッション、第29回東北建築賞表彰式及び作品展示会、東北支部研究報告会が行われました。

『建築を考える環境講座』は、10月10日に開催され、「日本盲導犬総合センター」で2009年日本建築学会賞作品賞を受賞された千葉学東京大学准教授を講師にお招きし、「そこにはかない形式」と題して講演会を開催いたしました。

『まちづくりフォーラム』は、3月6日に開催し、コーディネーターに北原啓司弘前大学教授、パネラーに大友喜助角田市長、安部三十郎米沢市長、佐々木孝男福島県建築住宅課長、コメンテーターに鈴木浩福島大学教授を迎え、「～これまでのまちづくり、これからのまちづくり～」と題して開催いたしました。

いずれの催しも、定員を上回る多くの参加者に恵まれ、会員や建築関係者はもとより、一般の方々に建築や都市への関心を深めていただくとともに、学会活動の社会還元行事として、支所として近年にない充実した活動を実施できたと思っております。

今後とも地域の学校や関係団体との連携・協働を行いながら、地域に根ざした支所活動を実践し、さらなる事業の充実を心がけてまいりたいと思います。



みちのくの風2009 福島

常議員会から

常議員（総務企画） 五十子 幸樹

常議員会は、支部長、14名の常議員（総務・企画4名、社会・文化3名、学術・教育3名、会計・会員2名、図書・情報2名）、支部長から任命された企画運営委員（2名）及び支部監事（2名）並びに支所長（青森支所・秋田支所・岩手支所・山形支所・福島支所）で構成されている。なお、常議員会の開催に当っては、総務会（支部長と総務・企画担当常議員）で議事内容などを検討している。また、9月に支部長、総務・企画担当常議員も出席して、支所長会議を実施している。

常議員会は、原則として毎月行われるが、議案が少ない場合には、ネットワーク会議としている。常議員会では、様々な議題が取り上げられ、支部活動が円滑に行われるよう努めている。また、学会本部の活動状況を踏まえた支部活動ができるよう、常議員会の冒頭で、理事会及び支部長会議の審議・報告内容が紹介される。本年度の常議員会で取り上げられた主な議事・報告のタイトルを要約して以下に示す

【2009年4月ネットワーク会議】みちのくの風2009 福島の進捗状況、2009年度予算案、次期常議員の選挙開票報告と役割分担、支部年報の編集状況、2008年度決算報告、2009年度文部科学省科学研究補助費の採択結果報告

【5月】みちのくの風2009 福島の進捗状況、大会関連行事準備の進捗状況について、理事会報告、総会及び関連イベントの準備確認、第30回東北建築賞募集

【6月】年間行事予定及び役割分担、理事会への支部長代行者、大会関連行事準備の進捗状況について、理事会報告、「作品選集2010」応募結果の報告、4,5月会計報告、みちのくの風2009 福島の総括、市民企画講座・支部企画への応募結果報告

【7月】みちのくの風2009 福島の総括、みちのくの風2010 山形について、大会関連行事準備の進捗状況について、支所長会議の日程、理事会報告、日本建築学会設計競技支部審査の結果報告、「作品選集2009」支部審査会の審査経過、第1回杜春塾レクチャー後援承諾について、北陸大会集会テーマ立案について、支部家賃交渉について、教育賞支部推薦依頼について、JCI講習会后援について、日本技術士会全国大会協賛名義使用について、6月会計報告、第2回建築家4組の住宅・建築展後援依頼について

【9月】選挙管理委員会の設置、2010年度日本建築学会設計競技の課題、2010年度大会研究集会テーマについて、特色ある支部活動募集について、2010年度日本建築学会文化賞候補及び大賞業績候補の推薦、みちのくの風2010 山形について、

2009年大会(東北)開催報告、アーキニアリング・デザイン展の精算について、すまいづくり市民セミナー開催報告、学生によるシンポジオン開催報告、支部研究報告会電子投稿について、平成21年度文科省科学研究費応募募集について、理事会・支部長会議報告、「作品選集2010」審査報告、「第30回東北建築賞」応募報告、支部事務所費の改訂について、第11期代議員および支部役員の選挙日程、6,7,8月会計報告、JCI講習会の後援について

【11月】みちのくの風2010 山形、支部研究報告会電子投稿について、第20回東北建築作品発表会の報告、理事会報告、代議員・常議員候補者届出状況、2009年度日本建築学会設計競技全国入選、タジマ奨励賞の報告、2010年度設計競技全国審査委員と支部審査委員の選出報告、アーキニアリング・デザイン展の決算ならびに大会決算について、日本建築学会教育賞（教育業績）への推薦報告、作品先週2011支部審査員の選定について、2010年総会の日程・会場について、2010年度収支予算、9,10月会計報告

【12月】2010年度収支予算、2010年度事業計画、東北建築賞奨励賞の審査について、みちのくの風2010 山形について、2010年度総会について、11月会計報告、代議員・常議員候補者届出状況報告、作品選集2011 選考委員選定報告、RC基準改訂・X形配筋部材設計施工指針講習会、2010年度日本建築学会国際交流振興基金の援助申請、支部研究報告会Web受付システムについて、大会2009 決算報告

【2010年3月】2010年度支部総会、みちのくの風2010 山形について、2010年度本部研究補助費申請の報告、共催名義使用承認の報告、2010年全国大学・高専卒業設計展の日程、支部年報第30号発刊計画の報告、RC基準改訂・X形配筋部材設計施工指針講習会報告、12,1,2月会計報告、理事会報告

支部役員名簿

東北支部常議員・企画運営委員の構成と役割分担

役 割	2009年度 (2009年6月～2010年5月)	2010年度 (2010年6月～2011年5月)
支部長	井上範夫 (東北大)	田中礼治 (東北工大)
総務企画	松井壽則 (日大) 渡邊浩文 (東北工大) 五十子幸樹 (東北大) 石川宏之 (八戸工大)	五十子幸樹 (東北大) 石川宏之 (八戸工大) 浦部智義 (日大) 堀 則男 (東北工大)
社会文化	田村宏治 (㈱みちのく設計) 西田哲也 (秋田県立大) 三宅 諭 (岩手大)	三宅 諭 (岩手大) 松本純一郎 (松本純一郎 設計事務所) 板垣直行 (秋田県立大)
学術教育	増田豊文 (東北文化学園大) 浅里和茂 (日大) 笹本 剛 (東北工大)	浅里和茂 (日本大) 笹本 剛 (東北工大) 山本和恵 (東北文化学園大)
会計会員	我妻孝幸 (JR 東日本) 渡邊裕生 (仙台市)	渡邊裕生 (仙台市) 丸山信博 (JR 東日本)
図書情報	本江正茂 (東北大) 志村直愛 (東北芸工大)	志村直愛 (東北芸工大) 飛ヶ谷潤一郎 (東北大)
企画運営	なし	なし
事務局	大場美香 瀧 美雪 伊藤章子	伊藤章子 瀧 美雪 大場美香

東北支部会員数 (2010年4月1日現在)

名誉会員	2名	準会員	31名
終身会員	49名	賛助会員	11法人
正会員 (個人)	1210名		
正会員 (法人)	42法人		

東北支部監事

2009年6月～2010年5月

保坂秀人 (JR 東日本) 関口美恵子 (仙台市)

2010年6月～2011年5月

関口美恵子 (仙台市) 我妻孝幸 (JR 東日本)

東北支部選出代議員

任 期	代 議 員
2009年4月 ～ 2011年3月	濱田幸雄 (日本大学教授) 斎藤文伸 (仙台市役所交通局東西線建設本部長) 持田 灯 (東北大学教授) 橋本典久 (八戸工業大学教授)
2010年4月 ～ 2012年3月	若井正一 (日本大学教授) 相澤義博 (東日本旅客鉄道㈱仙台支社企画部長) 小野田泰明 (東北大学教授) 沼野夏生 (東北工業大学教授)

研究部会長

研究部会	部 会 長
構造部会	植松 康 (東北大学教授)
材料部会	三橋博三 (東北工業大学教授)
建築計画部会	石井 敏 (東北工業大学教授)
地方計画部会	増田 聡 (東北大学教授)
歴史意匠部会	狩野勝重 (日本大学教授)
施工部会	最知正芳 (東北工業大学助教授)
環境工学部会	渡邊浩文 (東北工業大学教授)
デザイン教育部会	相羽康郎 (東北芸術工科大学教授)
災害調査連絡会	源栄正人 (東北大学教授)

支所長

支 所	支 所 長
青森支所	盛 勝昭 (㈱盛興業社 代表取締役)
秋田支所	山口邦雄 (秋田県立大学建築環境システム学科教授)
岩手支所	大木敏弘 (岩手県国土整備部建築住宅課総括課長)
山形支所	相羽康郎 (東北芸術工科大学教授)
福島支所	野内忠宏 (福島県土木部建築総室建築住宅課課長)

2009 年度事業報告

〈事務の部〉

総 会	1. 2008 年度事業報告・決算報告・会計監査報告 2. 2009 年度事業計画・予算案	2009 年 5 月 16 日 仙台市情報産業プラザ セミナーホール
諸 会 合	総会 (1)、常議員会 (8)、総務委員会 (9)、支所長会議 (1)、東北建築賞作品賞選考委員会 (3)、東北建築賞研究奨励賞選考委員会 (1)、東北建築賞業績賞選考委員会 (1)、設計競技審査会 (1)、選挙管理委員会 (2)、作品選集選考委員会 (2)、研究部会連絡会 (1)	() は回数
代議員半数改選	(留任) 狩野勝重、石坂公一、渡邊英明、磯部 正 (新任) 濱田幸雄、斎藤文伸、持田 灯、橋本典久	2008 年 4 月～2010 年 3 月 2009 年 4 月～2011 年 3 月
支部長改選	(退任) 吉野 博 (新任) 井上範夫	2008 年 6 月～2009 年 3 月 2009 年 6 月～2010 年 5 月
常議員半数改選	(退任) 市岡綾子、鈴木博司、関口美恵子、竹内昌義、佐藤 健、 陳 沛山、若松信行 (留任) 本江正茂、松井壽則、渡邊浩文、西田哲也、田村宏治、 我妻孝幸、増田豊文 (新任) 五十子幸樹、石川宏之、三宅 諭、浅里和茂、笹本 剛 渡邊裕生、志村直愛	2007 年 6 月～2009 年 5 月 2008 年 6 月～2010 年 5 月 2009 年 6 月～2011 年 5 月
企画運営委員		
支 部 監 事	保坂秀人、関口美恵子	2009 年 6 月～2010 年 5 月

〈支部事業〉

研究委員会	[部会名] [部会長] [テーマ名] 構 造 : 植松 康 構造技術における新しい試み 材 料 : 三橋博三 サステナビリティ確保に向けての建築材料学教育のあり方に関する調査研究 建築計画 : 石井 敏 21 世紀にむけた生活環境の創造 地方計画 : 増田 聡 ・東北のまちとまちづくり ・防災まちづくり ・環境問題と中心市街地の再編 歴史意匠 : 狩野勝重 災害を考慮した歴史的建造物のデータベースと活用方法の研究 環境工学 : 渡邊浩文 ・木質バイオマス利用 ・高齢化社会における環境工学の問題 ・都市のコンパクト化に伴う環境工学上の問題 ・東北の地域特性に根ざした都市環境計画 施 工 : 笠松富二夫 建築分野における最新技術とその施工法について 建築デザイン教育 : 相羽康郎 建築設計教育の充実を世界的観点から再調査する 災害調査連絡会 : 源栄正人 東北地域における地震及び各種災害が発生した際の調査、広報に関わる 連絡や調整および関連事業の企画立案と支援	
本部・支部研究助成金による研究	建築物のリニューアルの実態と改修技術の調査研究 施工部会 (研究代表者 笠松富二夫)	2009 年 4 月～2010 年 3 月
支部研究報告会	2009 年度東北支部研究報告会、 研究報告集第 72 号計画系・構造系刊行 発表題目 121 題	2009 年 6 月 20 日～21 日 コラッセふくしま

支部主催 支部共催 イベント	<p>1. 支部主催</p> <p>1) 建築文化週間事業 福島支所主催「建築を考える環境講座」</p> <p>2) 第20回「東北建築作品発表会」の開催（仙台市）</p> <p>3) 第30回「東北建築賞」の選考</p> <p>4) みちのくの風2009 福島 ・支部研究報告会と招待講演会 ・第29回東北建築賞授賞式 ・第29回東北建築賞受賞作品展示会並びにJIA 福島作品展</p> <p>2. 支部共催</p> <p>1) 親と子の建築講座・建築文化週間事業 ・福島会場「建築を考える環境講座」 ・山形会場「親と子の都市と建築講座」</p> <p>2) 第29回東北建築賞作品展示会 仙台市、盛岡市、山形市、由利本荘市、八戸市</p>	<p>2009年10月10日 2009年10月10日 2009年10月～2010年1月</p> <p>2009年6月20日～21日 コラッセふくしま</p> <p>2009年10月10日 2009年11月3日</p> <p>2009年6月～2009年10月</p>
研究部会主催	<p>1. シンポジウム</p> <p>2. その他、部会ごとに講習会・研究会・見学会などを適宜開催</p>	
表彰	<p>1. 第29回東北建築賞 作品賞6点、特別賞1点、研究奨励賞1点</p> <p>2. 日本建築学会設計競技支部入選者表彰3名</p> <p>3. 日本建築学会功労者表彰 個人5名、法人22社</p>	<p>2009年6月20日 コラッセふくしま</p> <p>2009年5月16日 仙台市情報産業プラザ・ セミナーホール</p>
支所活動	<p>青森支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員協議会 ・第29回東北建築賞作品展示会：八戸市 <p>秋田支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第29回東北建築賞作品展示会：由利本荘市 ・第38回秋田県工業系高校生による建築設計作品コンクール <p>山形支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第29回東北建築賞作品展示会：山形市 ・「親と子の都市と建築講座」 <p>福島支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第29回東北建築賞作品展示会：福島市 ・建築を考える環境講座：福島市 ・まちづくりフォーラム「～これからのまちづくり・これからのまちづくり～」：福島 	<p>2009年7月 2009年10月</p> <p>2009年7月 2009年2月</p> <p>2009年11月 2009年11月</p> <p>2009年6月 2009年10月 2010年3月</p>
刊行活動	<p>支部年報第29号発刊</p> <p>東北支部研究報告集第72号計画系・構造系発刊</p> <p>東北建築作品集（第20号）発行</p>	<p>2009年5月16日 2009年6月20日 2009年10月10日</p>

〈支部共通事業〉

講習会	<p>支部共通講習会開催</p> <p>「鉄筋コンクリート構造計算規準改定ならびにX形配筋部材設計 施工指針」講習会</p>	<p>2010年2月26日 仙台市情報産業プラザ・ セミナールーム</p>
展示会	<p>全国・大学高専卒業設計展示会</p> <p>山形市、由利本荘市、仙台市、郡山市、八戸市</p>	<p>2009年7月～2009年10月</p>
審査会	<p>2009年度支部共通 日本建築学会設計競技</p> <p>テーマ：アーバン・フィジックスの構想</p> <p>日本建築学会「作品選集2010」東北支部審査会</p>	<p>2009年7月9日</p> <p>2009年6月～9月</p>

2010 年度事業計画（案）

〈事務の部〉

総 会	1. 2009 年度事業報告・決算報告・会計監査報告 2. 2010 年度事業計画・予算案	2010 年 5 月 15 日 せんだいメディアテーク
諸 会 合	総会 (1)、常議員会 (8)、総務委員会 (9)、支所長会議 (1)、東北建築賞作品賞選考委員会 (3)、東北建築賞研究奨励賞選考委員会 (1)、東北建築賞業績賞選考委員会 (1)、設計競技審査会 (1)、選挙管理委員会 (2)、作品選集選考委員会 (2)、研究部会連絡会 (1)	() は回数
代議員半数改選	(留任) 濱田幸雄、斎藤文伸、持田 灯、橋本典久 (新任) 相澤義博、小野田泰明、沼野夏生、若井正一	2009 年 4 月～2011 年 3 月 2010 年 4 月～2012 年 3 月
支部長改選	(退任) 井上範夫 (新任) 田中礼二	2009 年 6 月～2010 年 5 月 2010 年 6 月～2012 年 5 月
常議員半数改選	(退任) 本江正茂、松井壽則、渡邊浩文、西田哲也、田村宏治、 我妻孝幸、増田豊文 (留任) 五十子幸樹、石川宏之、三宅 諭、浅里和茂、笹本 剛 渡邊裕生、志村直愛 (新任) 板垣直行、浦部智義、飛ヶ谷潤一郎、堀 則男、松本純一郎 丸山信博、山本和恵	2008 年 6 月～2010 年 5 月 2009 年 6 月～2011 年 5 月 2010 年 6 月～2012 年 5 月
企画運営委員		
支 部 監 事	関口美恵子、我妻孝幸	2010 年 6 月～2011 年 5 月

〈支部事業〉

研究委員会	[部会名] [部会長] [テーマ名] 構 造 : 植松 康 構造技術における新しい試み 材 料 : 三橋博三 サステナビリティ確保に向けての建築材料学教育のあり方に関する調査研究 建築計画 : 石井 敏 21 世紀にむけた生活環境の創造 地方計画 : 増田 聡 ・東北のまちとまちづくり ・防災まちづくり ・環境問題と中心市街地の再編 歴史意匠 : 狩野勝重 災害を考慮した歴史的建造物のデータベースと活用方法の研究 環境工学 : 渡邊浩文 東北地方の建築・都市の統合的な環境負荷削減のあり方に関する研究 施 工 : 最知正芳 建築分野における最新技術とその施工法について 建築デザイン教育 : 相羽康郎 場所性から建築設計教育を組み直すー東北学生作品と課題の分析と提案 災害調査連絡会 : 源栄正人 東北地域における地震及び各種災害が発生した際の調査、広報に関わる連絡や調整および関連事業の企画立案と支援	
本部・支部研究助成金による研究	東北地方既存不適格公立学校建築物構造耐震性の動向に関する調査研究 構造部会 (研究代表者 植松 康)	2010 年 4 月～2011 年 3 月
支部研究報告会	2010 年度東北支部研究報告会、 研究報告集第 73 号計画系・構造系刊行 発表題目 112 題	2010 年 6 月 19 日～20 日 東北芸術工科大学
支 部 主 催 支 部 共 催 イ ベ ン ト	1. 支部主催 1) 建築文化週間事業 福島支所主催「建築を想う環境講座」 2) 第 21 回「東北建築作品発表会」の開催 (仙台市) 3) 第 31 回「東北建築賞」の選考 4) みちのくの風 2010 山形	2010 年 10 月 2010 年 9 月 25 日 2010 年 10 月～2011 年 1 月

	<ul style="list-style-type: none"> ・支部研究報告会と招待講演会 ・会長支部訪問ならびに記念講演会 ・第30回東北建築賞授賞式 ・30回東北建築賞受賞作品展示会並びにJIA山形作品展 <p>2. 支部共催</p> <p>1) 親と子の建築講座・建築文化週間事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福島会場「建築を想う環境講座」 ・山形会場「親と子の都市と建築講座」 <p>2) 第30回東北建築賞作品展示会 仙台市、盛岡市、山形市、由利本荘市、八戸市</p>	<p>2010年6月19日～20日 東北芸術工科大学</p> <p>2010年10月 2010年11月</p> <p>2010年6月～2010年10月</p>
研究部会主催	<p>1. シンポジウム</p> <p>2. その他、部会ごとに講習会・研究会・見学会などを適宜開催</p>	
表彰	<p>1. 第30回東北建築賞作品賞 作品賞4点、研究奨励賞1点</p> <p>2. 日本建築学会設計競技支部入選者表彰3名</p> <p>3. 日本建築学会功労者表彰 個人会員3名、法人賛助会員4社</p>	<p>2010年6月20日 東北芸術工科大学</p> <p>2010年5月15日 せんだいメディアテーク</p>
支所活動	<p>青森支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員協議会 ・第30回東北建築賞作品展示会：八戸市 <p>秋田支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第30回東北建築賞作品展示会：由利本荘市 ・第39回秋田県工業系高校生による建築設計作品コンクール <p>岩手支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第30回東北建築賞作品展示会：盛岡市 <p>山形支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第30回東北建築賞作品展示会：山形市 ・「親と子の都市と建築講座」 <p>福島支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第30回東北建築賞作品展示会：郡山市 ・建築を想う環境講座 	<p>2010年7月 2010年10月</p> <p>2010年7月 2011年2月</p> <p>2010年9月3日～5日</p> <p>2010年6月19日・20日 2010年11月</p> <p>2011年2月 2010年10月</p>
刊行活動	<p>支部年報第30号発刊</p> <p>東北支部研究報告集第73号計画系・構造系発刊</p> <p>東北建築作品集（第21号）発行</p>	<p>2010年5月15日</p> <p>2010年6月19日</p> <p>2010年9月</p>

〈支部共通事業〉

講習会	<p>支部共通講習会開催</p> <p>「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説改定講習会」講習会</p> <p>「小規模建築物基礎設計例集」講習会</p>	<p>2010年11月11日</p> <p>2011年2月</p>
展示会	<p>全国・大学高専卒業設計展示会</p> <p>山形市、由利本荘市、仙台市、郡山市、八戸市</p>	<p>2010年7月～2010年10月</p>
審査会	<p>2010年度支部共通 日本建築学会設計競技</p> <p>テーマ：大きな自然に呼応する建築</p> <p>日本建築学会「作品選集2011」東北支部審査会</p>	<p>2010年7月</p> <p>2010年6月～9月</p>

法人・賛助会員

阿部建設(株)	(株)山下設計
(株)大林組	(株)梓設計
(株)関・空間設計	(株)伊藤喜三郎建築研究所
(株)奥村組	東日本興業(株)
鹿島建設(株)	東北ポール(株)
(株)久米設計	(株)昂設計
(株)熊谷組	(株)みちのく設計
清水建設(株)	千田総兵衛建築事務所
仙建工業(株)	(株)東北設計計画研究所
大成建設(株)	(株)本間利雄設計事務所+ 地域環境計画研究室
(株)竹中工務店	(株)清水公夫研究所
鉄建建設(株)	東日本旅客鉄道(株)
戸田建設(株)	東北電力(株)
(株)ユアテック	(株)NTT ファシリティーズ
西松建設(株)	有限責任中間法人 東北空気調和衛生工事業協会
(株)間組	東北文化学園専門学校
(株)フジタ	日刊建設産業新聞社
堀江工業(株)	(株)佐藤総合計画
前田建設工業(株)	東北文化学園大学
(株)ピーエス三菱東北支店	
(株)三菱地所設計	